

研修視察報告書

令和 7年 1月30日

〔会派名： 自由クラブ〕

代表者氏名	山下 登	記録者氏名	柏 元三
視察者氏名	木平 秀喜、柏 元三（三原 淳子、藤川 美広）		
視 察 日	令和7年1月22日（水）		
視 察 先	津島市教育委員会		
目 的	放課後子ども教室について		

視察概要

津島市は人口6万5千人、名張市より少し小さい自治体だが、現市長の財政改革により財政調整基金44億円超になるなど、非常に財政状態が良好なまちです。

令和5年度に「子育て支援トータルプラン」を打ち出し、子どもが生まれる前から高校生になるまで丸ごと支援して、全国トップクラスの支援を行うとしている。行政が明確なコンセプトで子ども政策に取り組んでいることから、放課後子ども教室はしっかり運営されている。保護者のアンケート調査を毎年実施して、極力保護者の希望に沿うように運営されている。

過去に視察した（八王子市を除く）関東の各自治体には業務委託や指定管理者方式で「子どもの居場所」に特化している印象が感じられたが、津島市は行政（教育委員会）が地域住民の協力を得て立ち上げ、保護者の意見を聞き、取り入れながら運営し、子どもの教育まで波及している「手作り感」に特徴があった。

《下校の安全》

- 高校生以上の関係者による下校時の迎えが登録（参加）条件になっている。
この件についての不満はアンケートでは見られなかったが、親が仕事の都合で迎えができない家庭の子どもは「放課後児童クラブ（学童）」に行くので、保護者の迎えに支障はないとの考えであった。ただ、学童に行けない子どもの中にも、保護者が働いていて迎えが出来ない子どもへの配慮が必要と感じた。

《費用》

- 放課後子ども教室に参加する子どもの費用は、傷害保険料と材料・資料代等以外は無料となっているが、津島市は年間4000円徴収している。津島市の子ども教室では子どもと保護者ともに工作が好評で、保険料800円を除いた3200円のほとんどが工作の材料代の費用になっている。

《運営上の課題》

- 指導者（見守る）の確保に苦労している。
- 子ども教室をさらに進化させる目的で放課後NPOアフタースクールの手法を導入している。（まだ始めたばかり）
- 放課後子ども教室と放課後児童クラブの連携は行事やスポーツなどに限定されており、今後の進め方に苦慮している。

《効果（保護者の感想）》

- いろいろな経験をさせてくれるのでありがたい。先生方が親切に対応くださる。 ○
- 他のクラスや学年が違う子と仲良くできるし、親も長時間仕事ができるので有難い。
- 放課後子ども教室から地域交流を活性化させ、地域全体で子どもを見守るようになるとうれしい。
- 工作や実験が楽しかったらしい。
- 他学年や大人と関わるのが勉強になり良かった。
- 学習・体験・交流の場としていろんな人と関わることによって、親子ともども成長できるような気がする。

《意見》

視察した7市の放課後子ども教室は夫々に特徴が診られたが、八王子市は「全国一の子ども政策」を目指して組織化され、予算は必要なだけ配分されている。日進市は「全国一おいしい学校給食」を子ども政策の中心に位置づけて、子ども政策を重点的に取り組んでいる。津島市は「子育て支援トータルプラン」に注力している。

明石市が子ども政策を市政の柱に掲げて重点的・集中的に運営した結果、「子育て世代の移住による大幅な人口増」「税収アップ」を実現したように、日本国・自治体の未来を担う子供たちへの投資の有効性が認知され、必然化している。

名張市は「ネウボラ」を掲げて子ども政策を運用して他自治体に先行してきたが、ここ数年は尻すぼみ状態になって他の自治体から遅れている。新市政に代わってからは、「生み育てるにやさしいまち」「妊婦さん応援宣言」などが軽視される等、子ども政策が置き去りにされる危機感がある。名張市の放課後子ども教室は地域づくり組織に丸投げされて、学校が関与しないところで、しかも国の「新子ども総合プラン」の主旨から大きく乖離した状態で運営されている。これを正常な形に引き戻すことは、ゼロからスタートするよりも困難であると思う。